

# 大学院特別講義

(医歯学先端研究特論)(生命理工学先端研究特論)

(医歯理工学先端研究特論)

下記により大学院特別講義を行いますので、多数ご来聴下さい。

## 記

1. 講師 徳島大学大学院  
名誉教授 坂東 永一 先生
2. 演題 咬合学を発展させるために
3. 日時 平成28年11月17日(木)17:00~18:00
4. 場所 歯科棟南4階 歯学部特別講堂

## 5. 抄録

咬合小面を咬合参照面に一致させて作れば、顎運動に調和した咬合面形態が得られる。このことにやっと到達した同じ時期に、咬合面形態が変化すれば顎運動も変化することが明らかになった。すなわち望ましい咬合面形態を得るためには、望ましい顎運動データが必要であり、望ましい顎運動を行うためには望ましい咬合面形態が必要であるということである。

主機能部位や顎機能制御系など顎運動には咬合に対する反射性の運動が強く関与している。この反射性の運動が望ましいものであれば顎機能を円滑に営むことができる。顎運動は定量的に測定可能であり、顎運動を適切に評価できれば咬合を客観的に評価できることになる。その一例として Index B を提案したい。

連絡先: 三浦 宏之(岡田 大蔵)(摂食機能保存学分野 内線5521)